

2026年5月29日

学校法人三幸学園
大阪こども専門学校
校長 平松 敏機 殿

学校関係者評価委員会
委員長 河原 始

学校関係者評価委員会実施報告

2025年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 舟戸 智（社会福祉法人 鶴町学園 理事長・施設長）
- ② 畚谷 留衣（第13期卒業生）
- ③ 河原 始（飛鳥未来高等学校奈良本校 キャンパス長）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2026年5月28日（会場 大阪こども専門学校 403教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2025年度 学校法人 三幸学園 大阪こども専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 片淵 卓也

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 河原 始

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

(1) 通信制高校出身者増加に伴う学生支援の充実

毎日登校や人間関係に不安を抱きやすい学生が多くなっている状況を鑑み、内部進学生のみを対象入学前フォローアップ会を開催。他学生も入学前保護者説明会や新入生オリエンテーションも実施しているが、こちらは不安解消、歓迎ムードの伝播に注力したものの。

結果、参加者全員が満足度満点を付ける結果を得られ、かつ、不安軽減の実感値は全員が軽減したとの実感値を付けている成果が得られた。

(2) 教育活動、社会貢献・地域貢献について

地域の園と連携し園児をオープンキャンパスに月1回の頻度招いたり、学生が園に赴き授業で得た技術を複数回提供したりするなど昨年度以上に現場と連携し学びの質向上、地域・社会貢献することができた。

また、関東にある同法人の保育園と連携し、オンライン上にて園児と学生とが交流する機会を月1回の頻度で実現。2月には、園児たちにとって画面の向こうで見ていた学生が実際に目の前に現れる演出を行い、園児に対する保育活動と学生の学習意欲の向上につなげることができた。

② 学校関係者評価委員会コメント

(河原委員)

奈良本校から大阪こどもへ通う際の距離、友達が出来るか不安、など新しい学校に入学する際にハードルが高かったが、不安を解消する取り組みが学生からも評判がよくありがたかった。

人間関係を学ぶ機会が少なく、社会でつまずいてしまう事を防ぎ、第一歩が踏み出せるいい取り組みだと感じた。

(舟戸委員)

歓迎ムードを作ることは難しいと認識しているが上手くいっていることが非常に良かった。
満足度 100%であることが凄い。

(許斐さん)

姉妹校も非常に高い数値を出している。

(舟戸委員)

画面の中の学生が実際に園に赴く取り組みが良い、我が園に来る大阪こどもの実習生や入職者が前向きに自ら動こうとする学生が多いのはこのような取り組みから自己肯定感を上げられているのでは。

(畚谷委員)

大阪こどもの教員はいつも笑顔で挨拶の声が大きく励みになる。アンケート結果満点の要因なのではないかと感じた。社会に出てコミュニケーションを取る事を不安に感じている学生一人一人に丁寧に接することがいい結果につながったのでは。オンライン保育について時代に合った取り組みだと感じた。学生たちも学校で学んだことを現場で新しい事に挑戦してくれることを期待する。

(片淵さん)

ぼけっとランドが関東を中心に展開しており園連携が難しいためオンライン保育の取り組みを始めた。
良い成果が出ているのではないかと思います。

(許斐さん)

学生が学校で新しいことに挑戦する経験を積むことは、将来現場でも新しい取り組みをしようとする姿勢を醸成出来ることにつながるのではないかと。

新しいことにチャレンジする際、古い体制に重視する風潮に懸念しながら伝える事があるが、いただいた観点を励みに新しいことに挑戦する機会創出を積極的に行っていきたい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・学校が掲げる理念・育成人材像について生徒達・保護者への周知は行っているが、理解浸透には引き続き課題が残った。

② 今後の改善方策

- ・2026年度より、同分野の姉妹校全体で教育目標及び育成人材像をより周知しやすい内容に改善している。例年以上に授業や行事のタイミングを活用し周知・浸透を図る。
- ・講師に対しても全体会議等の場で学校側が伝えたいことを共有しながら、認識統一を行う。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(畚谷委員)

自社に未来を生き抜く力、という理念があるが理念をどれだけ熱く語ることが出来るか、上長が理解をして噛み砕き部下に浸透させることが大事。

風景化を避けるため学室に貼り出している目指す人物像の文言に色を付けて強調してもいいのではないかな。

(舟戸委員)

あらゆる所に目に見える形で置く事で自然と目に入り誰かに響くと思う。保護者に周知することが出来るかの懸念があり、周知する必要があるのかも疑問である。また、学生や園利用者の家族からの口コミで大阪こどもの良さが広まっていると感じる。

(河原委員) 高校でも職員室に貼りだしているが学生の目にはあまり触れていなかった。目指す人物像を教員から学生に繰り返し伝えていくことが大事。高校でも先日生徒会の立候補者演説があった。一年生の学生が先輩に助けてもらった感謝から立候補したとのことでその気持ちをみんなに持って貰いたい。教員から学生へ伝える事も大事だが学生間の口コミも大事なのではないかと感じている。

(三浦さん) 自クラスの学生に理念に基づいたクラス目標を立てさせているのだが浸透させるための良い方法はないかな。

(畚谷委員)

なぜ保育士になりたいかを問いかけて深掘りを進めて理念に繋げていく。問いかけを繰り返して学生自身に整理をさせて目標立てにつなげる。

(舟戸委員)

経験の共有をすることで自分なりのキャッチーな言葉を出せる。そのことで浸透を図るのはどうか。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・情報システム化を促進しようとする意識は上がっており、また活用率も上昇している。しかし、システムの理解度に偏りがあり、また全体の活用度も更に高い水準まで上げていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・学園から発信されているマニュアルの活用、および部門の状況に合わせてブラッシュアップし誰でも活用できるように理解を深めていく。全体、場合によっては個別のレクチャー会も検討。
- ・姉妹校の活用例などを積極的に取り入れ、活用度を高めていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（舟戸委員）

出退勤のICT化を進めているが上手くいかず結局は手入力に戻ってしまった。園によって差はあるかもしれないが保育士はパソコンを使いこなせていないように感じる。若手に関してスマホ等は使いこなせる傾向にあるがパソコンのスキルは高くない。学生時代にどこまでを教えているのか、また教員にも教える必要があるのではないかと感じる。

（河原委員）

保育業界でのICT化はよく分からないが高校ではGoogleのツールを用いており、勤怠もICT化しているが、経費精算など細かな点を使いこなせておらず研修の実施が初回以降なく今更聞けないことが多い。

（片淵さん）

テストやレポート採点はICT化しているのでは？

(河原委員)

解答をスキャンし自動採点したものを目で確認している。その結果をシステムに反映させ成績を出す。高校分野で活用する流れを作っており業務負担も大幅に軽減されている。

(畚谷委員)

マニュアルが文字ベースであることが課題。映像ベース(TikTok、short 動画等)で周知するのがいいのでは。現場で使える知識を学べると応用が利きいいのではないか。

(片淵さん)

保育士の作業で時間が掛かっていることを DX 化出来るものはないか。

(舟戸委員)

5 分ごとに記録をしないといけない睡眠チェックに時間が掛かっている。

(3)教育活動

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・学校としての資質向上のための研修については全体会議等での機会を設けている部分もあるが、教職員によって実施回数に差がある。
- ・研修体系として、インプット機会は用意しているがアウトプット機会は十分に取れていない。

② 今後の改善方策

- ・より先端的な知識・技能等を修得するための研修について、全体会議などの全体を対象にした研修も例年同様実施しながら、個々課題に沿った研修受講を面談等の個別アプローチで促す。
- ・研修の後どのように実践していくかで職員間・学年間で検討・実践できるよう、研修後のアウトプット機会を仕組化し設ける。具体的には(1)の改善方策と同様に学年や関連教科毎の機会を仕組化していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(石山さん)

三幸学園では階層別に研修をしている。委員それぞれの所属組織での研修はどうか？

(畚谷委員)年次別で研修を行っている。アウトプットの場を強める意味合いでアットホームな形で会議を行っているがその中で20分間自分の得意なものをスピーチする。現場で役に立つアウトプット力を養う。

(舟戸委員)

階層別研修、マナー研修、園内研修、外部研修を行っている。テーマはその都度異なるが自己理解を深める事が根幹にあり講師を呼び講演、キャリアアップ研修としてカウンセリングを実施、自分を理解した上でどうステップアップしていくかを考える場を中堅の職員を対象に設けている。第三者の視点から自分を見てもらい伝えてもらう機会を作っている。

(河原委員)

児童養護施設で働いていたときは外部研修が多く、どの様に保育していくかの研修をリーダーが受けていた。他にもアンガーマネジメント等は体験型研修も実施。教員間で研修のフィードバックを実施し、ケースワーカーを呼び事例研修をすることが多かった。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

- ・就職率及び資格取得率の向上を図る取組みは行っているが、成果が出し切れていない。
- ・1 学年の退学率を中心により退学率の低減が求められる。

② 今後の改善方策

- ・履修科目の単位修得により資格取得の可不可が決定するため、単位修得率の向上に努める。
特に実習科目を起因とした資格(免許)未取得者が多いため、本実習の前に現場を経験する機会を増やしたり実習前後のフォローに注力したい。
- ・2025 年度は人間関係を起因とする 1 学年の退学が多かった。学生の悩みを早期に適切にキャッチできるよう担任以外の教員(副担任・授業講師など)との連携を強化したい。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(畚谷委員)

卒業生視点から見ると退学してしまった当時の学友と話すことがあり、後悔していると言っていた。
新卒職員はワークライフバランスを重視しており、大阪こどもは就職活動を進める中で学生へのフォロー、求人掲載が盛んだと感じていた為教員からのサポートは手厚かったのでそのまま実施してもらいたい。
実習で上手いかなかった学生の中に先輩の勧めで進んだケースがあったが自分に合うかどうかで検討してほしい。

(舟戸委員)

実習生と教員の距離が近く、巡回時に親身に対応している姿を見ているため、受け入れ側としての視点だと好感触。

距離の近い教員を巡回に向かわせており、実習生が巡回を楽しみにしておりよかった。

(畚谷委員)

実習前の指導が厳しかったが現場でも役に立つ大事な経験だった。叱られる機会が最近の学生は少ないことが懸念である。指導後のフォローとセットで厳しく指導してもよいのではないかと。

(河原委員)

単位取得については高校でもネック。通学が出来ず退学する学生もいるが、担任の情熱で差がでることも多い。熱意を伝える事で退学率を下げる取り組みを進めたい。

(畚谷委員)

家庭の事情でやむなく退学する学生もいた。学校が嫌いになったわけではない。教員の熱意は伝わっていた。資格がなくても子どもと接することが出来る職場もある。

(5) 学生支援

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・卒業生 LINE 等を活用し、定期的に支援体制の存在を発信したり学校行事に卒業生を招待する等支援強化に取り組んでいる一方で認知度や支援実績にはまだ課題が残る。
- ・2024 年度より高専接続強化のため入学前に姉妹高校卒業生と次年度入学生が交流する機会を設ける等仕組化に力を入れており、2025 年度は姉妹高校卒業生の学生生活情報を卒業高校に月 1 で報告。高校の元担任とも情報共有を行いながら学生指導を行った。

② 今後の改善方策

- ・卒業生 LINE の定期的かつ卒業生にとって有効的な情報発信は引き続き意識しつつ、上記で触れた卒業生が母校に戻る機会の創出も模索していく。
そのために卒業生交流会においても参加率を向上すべく施策を行う。
- ・昨年度、姉妹高校との連携について仕組み作りを行ったことから 26 年度はより連携の頻度や質を高め、退学率低減や単位取得率向上という具体的成果にもこだわり施策を行っていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(河原委員)

月一の姉妹校連携で継続的に連携が図れている所が良かった、些細な報告でも近況を知ることが出来てよかった。退学率低減に繋がるのではないか。中途退学者への支援とは具体的にどのようなものか。

(許斐さん)

退学者へその後の支援を示す何らかの取り組みができることだと認識しているが、自己評価ではそこに課題感を感じており、退学者アンケートを実施し何が原因か探ることにより今後の改善と向上を図っている程度が現状。

(河原委員)

高校においても退学者に対して転校のサポートは試みているが退学時点で進路が未定の場合サポートが難しい。

(舟戸委員)

卒業生に日頃から実習生の対応をしてもらい嬉しく思う。教員の巡回時に卒業生についてヒアリングがあるが迷惑ではなくむしろ話をしたい時もある。

(片淵さん)

卒業生支援の属人化脱却を図りたい。

(石山さん)

新しく異動した教員だとサポートが難しい。

(畚谷委員)

異動教員と卒業生の中で共通の話題を見つけてアプローチを掛けるのがいいのではないか。

(三浦さん)

卒業生としてどんなプログラムや取り組みがあれば学校に集まってくれるか。

(畚谷委員)

知っている先生に声をかけてもらえると安心感がある。

(舟戸委員)

個別に呼びかけをすると効果的ではないか。

(畚谷委員)

卒業生への招待状に手書きを加える事で暖かさを出し業務感をなくす。時間はかかるが効果的だと思う。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・教育上必要な設備は整備されており、加えて 2025 年度は学生のニーズに応えクールダウンスペースを全館に設置。一方、利用にあたって使用ルールについては引き続き検討の余地がある。
- ・海外研修を 2025 年度より国内研修に変更した。

② 今後の改善方策

- ・設備の確保に留まらず、本当に利用が必要な学生が適切なタイミングで使用できるよう利用ルールの整備を行っていく。
- ・国内研修に関して姉妹校全体で参加希望者が多かったことから、25 年度送り出しは叶わなかったが引き続き需要に基づき希望者が参加できる体制を整備していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・合理的配慮が必要な入学希望者の増加。

② 今後の改善方策

- ・具体的な学習形態や国家資格取得に向けて求められる能力等を伝えながら、入学希望者に必要な支援を共に検討していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(石山さん)

合理的配慮を持つ学生の就職実績や活躍はあるか、園での受け入れ態勢などはあるか。

(舟戸委員)自身の状況(手帳保持や特性など)をオープンにした上で自身がどこまで出来るかを理解していれば採用できる。クローズで入ってくる職員においては何が出来て何が出来ないかを分らないと本人も園も困る。

(石山さん)

資格を取得していても特性による不採用を恐れて開示しない学生がいた。

(畚谷委員)

手帳を持っている職員がいるが、合理的配慮を職員全員が周知しており関わり方、伝え方を把握している。採用において子どもが好きな想いを重視している。

(河原委員)

オープンで入学している学生は多いが、手帳を取得していない学生の就職活動がネック。保護者が特性を認めないケースも多い。

(8)財務

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025年度は第3期中期経営計画(2023年度～2027年度)の3年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画<第2.0版>を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・26年度より委託訓練生の受け入れを開始している。
- ・学校のスタジオを地域の小規模保育園に貸し出し園行事に活用いただいた。

② 今後の改善方策

- ・地域/業界連携強化のため、引き続き近隣園との交流機会を検討・実施していきたい。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（畚谷委員）

自園も園庭がないため近くの学校の校庭を借りて行事を実施することがあるので助かる取り組みである。近隣の子育て中保護者への支援やヒアリングを行うことが出来たら学生の学びに繋がるのでは。

（河原委員）

近くにこども園があるがなかなかコラボが出来ない。

（許斐さん）

奈良本校から本校に入学している内部進学生、エリア担当、こども園、奈良本校でコラボが出来ないか。

（河原委員）

賛同する。共に連携して地域貢献したい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(畚谷委員)

教員がこれほどまでに日頃学生の事を考えてくれていたのだと実感し、現代のニーズに合ったサポートを模索しており感動した。保育士を目指す学生が増える一助になりたい。

(舟戸委員)

分析されたデータを見せてもらえたと感じるので引き続きこのまま進めて欲しい。自ら動こうとする力がこれからのカリキュラムで引き続き育まれることに期待したい。

(河原委員)

初参加でむしろ自分も勉強になった。個別でのメッセージは大変だが効果的だと再度実感した。卒業生との連携をこれからも模索したい。

(石山さん)

日々の学校運営の中で、手のかかる学生や課題に着目しがちだが立派に現場で働いている卒業生を目の当たりにし、改めて職員に周知したい。

(三浦さん)

個別のメッセージについて HR 等で学生のノートに書いた時の学生たちの喜ぶ顔を思い出した。自分たちの行いを学生が将来現場で仕事をしている時に子ども達、保護者にしたいと思えるのではないかな。研修内容がとても参考になった。

(許斐さん)

卒業生からの声、訪問時の教員と学生の関わり方、巡回時の卒業生についてのヒアリングなど今までの行いが改めて再評価いただけて良かった。

(片淵さん)

保育士の働き手不足を受けて養成校としての使命が年々大きくなっていると感じる。一人でも多く輩出し、長く続けてもらうためにも退学率低減に引き続き取り組んでいく。

以上